

# 水資源(水循環)に関する教育、普及啓発

---

国土審議会 水資源開発分科会 調査企画部会

平成26年2月3日

---

---

## - 目 次 -

### ■水資源(水循環)に関する教育、普及啓発

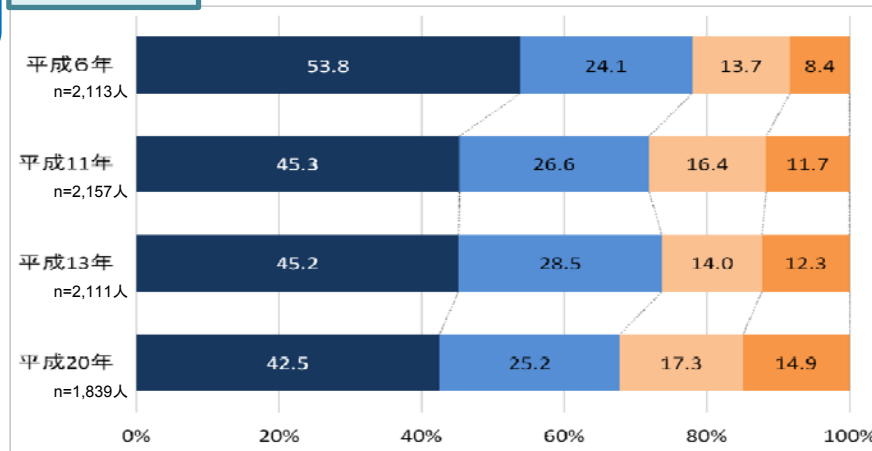
- |                 |      |   |      |
|-----------------|------|---|------|
| ④現状と課題          | p 1  | — | p 3  |
| ⑤教育・普及啓発に関する方向性 | p 4  | — | p 16 |
| ⑥参考資料           | p 17 |   |      |

## ④-1 現状と課題 ～水源に関する認識～

Q. あなたの使っている水道の水の水源は何かご存じですか。

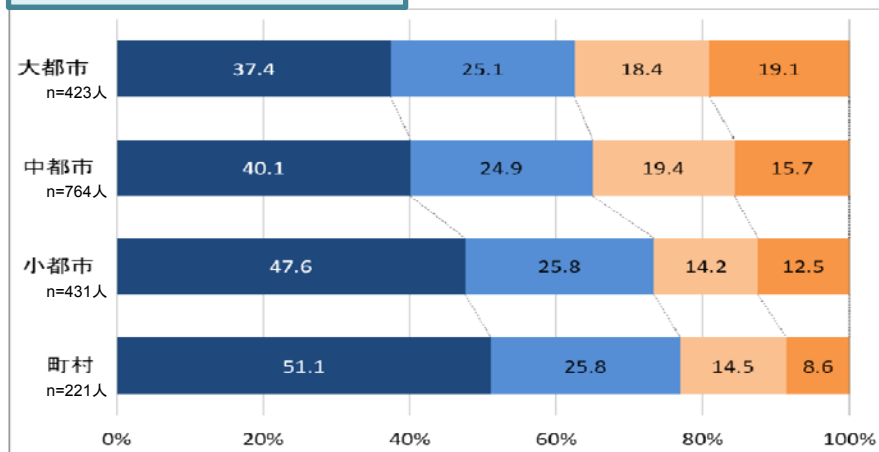
- 知っている  
(具体的な河川や湖の名などまで知っている)
- ある程度知っている  
(河川や湖などであることは知っている)
- あまり知らない  
(漠然としか知らない)
- 知らない

### 調査回別

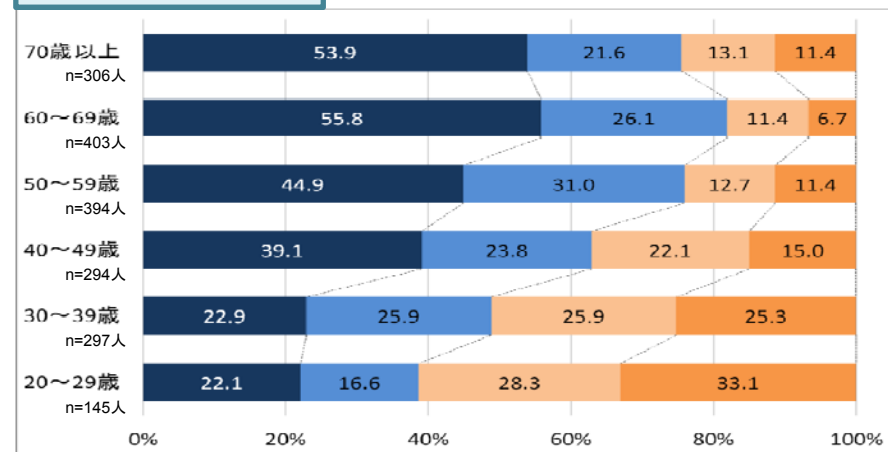


➤ 水源に関する認知度は低下傾向

### 都市規模別(平成20年)



### 年齢別(平成20年)

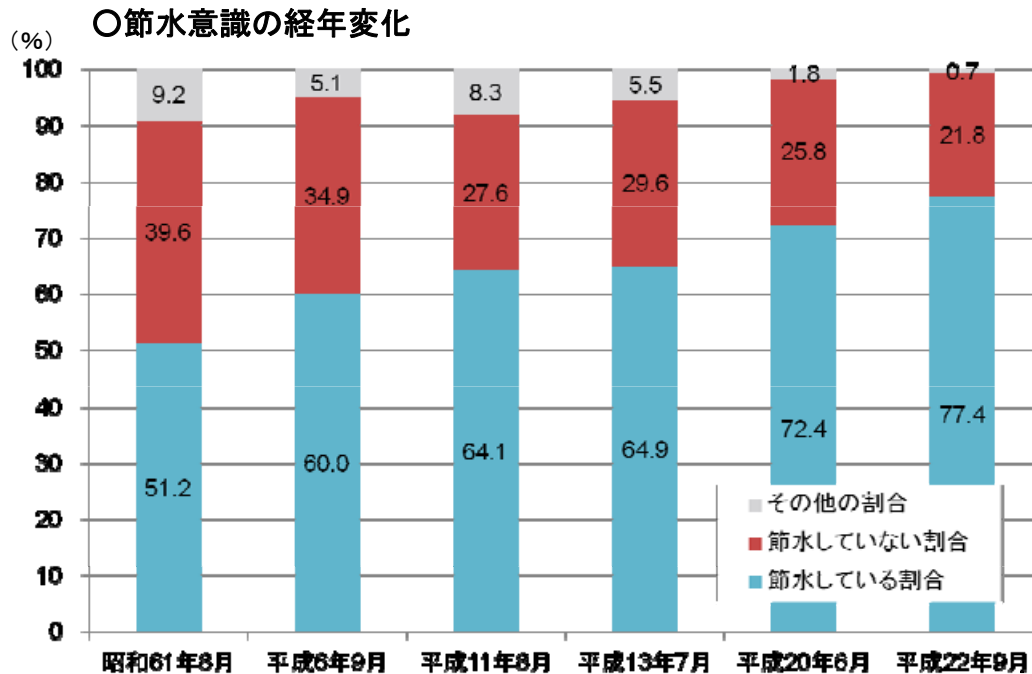


➤ 水供給システムが広域化・複雑化した大都市ほど、水源に対する認知度が低い傾向

➤ かつての生活と水とのかかわりを知らない若年層ほど、水源に対する認知度が低い傾向

## ④-2 現状と課題 ～節水意識～

- 「節水している」または、「どちらかといえば節水している」と答えた人は77.4%であり、過去の同様の調査と比較すると、水に対する意識が着実に高まっている。
- 「節水呼びかけ」のほか、「懸賞付き」節水キャンペーンや環境保全を訴える節水の啓発活動が行われている。



(出典)内閣府世論調査

### ○節水キャンペーンの例（熊本市ホームページより）



### ○節水ポスター



- 水道事業者によるキャンペーンで、「前年同期ご使用量」より「今回ご使用量」が減っていることを応募条件とし、水道使用者へインセンティブを与えて節水を働きかけている。
- 琵琶湖・淀川の水を水道水源と水道使用が湖沼の生態系をはじめとする環境に影響することを訴え節水を呼びかけるポスター。(国土交通省 近畿地方整備局)

➤ 節水への意識は高まりつつあるが、継続的な普及啓発によりさらに向上の余地

## ④-3 現状と課題 ～学校教育～

### 学習指導要領の変更(H20.3)に呼応した 中学校の年間の標準授業時数の変更

【改訂前学習指導要領】

	1年	2年	3年	計
国語	140 (4)	105 (3)	105 (3)	350
社会	105 (3)	105 (3)	85 (2.4)	295
数学	105 (3)	105 (3)	105 (3)	315
理科	105 (3)	105 (3)	80 (2.3)	290
外国語	105 (3)	105 (3)	105 (3)	315

【新学習指導要領】

	1年	2年	3年	計
国語	140 (4)	140 (4)	105 (3)	385
社会	105 (3)	105 (3)	140 (4)	350
数学	140 (4)	105 (3)	140 (4)	385
理科	105 (3)	140 (4)	140 (4)	385
外国語	140 (4)	140 (4)	140 (4)	420

注：( )内は週当たりのコマ数。

### 新しい中学地理教科書の特徴(“国土教育”の観点から)

- 学習指導要領の改訂を踏まえ、いずれの教科書も、日本を7つの地域(地方ブロック)に区分し、それぞれの地域について、国土の地理的特徴、各種産業・文化の特色とその背景、交通インフラと地域のつながり等について詳説。 ⇒ **大幅なページ増**
- 地方ブロック単位の視点で見ることによって、また、日本全国の地域を網羅的にカバーすることによって、国土への働きかけ(の歴史)とその効果が鮮明に記述されることに。

### 中学地理教科書における水資源関係の記述内容例(概要)

九州地方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ シラス台地の開墾やダム建設にともない、灌漑された畑地では大根やキャベツ、茶の栽培が盛んになった(本文7行)</li> <li>○ 沖縄:大きな川がなく、水不足が起こりやすい→地下ダムの整備とかんがい用水(本文4行)</li> </ul>
中国・四国地方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間を通じて降水量が少ない瀬戸内地方では、ため池によって農業用水を確保してきた(本文3行)と讃岐平野のため池(写真)</li> </ul>
近畿地方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「近畿のみずがめ」琵琶湖の特徴・役割、周辺開発と水質悪化、環境保全の取り組みとその効果(本文35行)</li> </ul>
中部地方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知多半島・渥美半島:愛知用水や豊川用水の整備による水不足の解消、農業振興(本文5行)</li> <li>○ 北陸地方:ダム、堤防、放水路整備の効果→全国有数の米の産地に(本文6行)</li> </ul>
関東地方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎日の生活のための協力(利根川・荒川・多摩川の利水)(コラム)</li> </ul>
東北地方	なし
北海道地方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 北海道のきびしい自然環境の中で農作物をつくる挑戦(人々のたゆまぬ努力の成果、石狩平野の稲作:泥炭地の水路整備・土地改良、十勝平野:広大な原野の台地を切りひらいて畑にした)(本文20行)</li> </ul>

➤ 中学校等において**国土教育(水資源含む)**が扱われる機会は増加しており、教員等においてこれに関する**関心や知識を持っていたことが効果的な教育に結びつく可能性が高い**

【出典】森田康夫:寄稿「新しい中学社会科教科書が描く国土教育の未来」(JICE REPORT vol.23 / 2013.7)をもとに水資源部作成

## ⑤-1 教育・普及啓発に関する方向性

### 【課題】

かつての「水文化」の衰退

主体的な姿勢、意見を醸成することの重要性

「国土教育」機会の増大

更なる意識向上の余地

水供給の広域・複雑化、水循環（自らとのかかわり）に関する認知度の低下傾向

施設ごとの広報活動（総合的な取組が不十分）

国民・企業等の意識の変化、官主導からの脱却

指導者の不足

新たなコミュニケーション手法の出現・普及

### 【取組のポイント】

- ① 長い年月の中で醸成されてきた「水文化」に日常的に触れる機会を生み、自ら考える契機を作り出すとともに、「教育」や「学習」の取組も強化していくことにより、中長期にわたって継続的・持続的な取組としていくことが重要。
- ② 水源地から河川（流下）、水道（取水・送水）、下水道（排水）に至る過程を含む水資源の流れ（水循環）やこれにまつわる地域の自然・社会の全体像（地誌）、自身とのかかわりを総合的に学ぶことができるようにすべき。
- ③ その際、学校教育にとどまらず家庭教育や生涯学習等あらゆる機会や場、媒体（ツール）を活用し、産・学・官やNPO等が連携し伝道師となる人材の育成につとめ、活動の裾野が自ずと広がっていくように工夫すべき。

結果として

- 地域の姿や水の様子とともに変化してきた地域と水のかかわり方に適応した、新しい「水文化」の形成
- 水の「恵み」に感謝するとともに「災い」に対し柔軟に対応できる社会風土・文化の醸成



## ⑤-2 「水文化」に触れ自ら考える契機を生み出す取組の事例

### 自然と共生する生活を題材とした取組

滋賀県高島市針江地区では、川端(かばた)とよばれる仕組みを用いて生水(しょうず＝湧水)が暮らしに利用され、この地域独特の川と生活が密着した美しい風景を作り出している。

「針江生水の郷委員会」が窓口となって来訪者が見学できる体制がとられており、人と人、人と自然のつながりを見つめなおし、自然との共存について考える契機となっている。

見学の様子 →



← 今も生活に密接している川端。壺池にはナスが浮かび、端池には大きなコイが何匹も泳いでいる。

まず、各家庭の元池(もといけ)から湧き出した生水が壺池(つぼいけ)に入り、その水は料理、野菜洗い、洗顔に使われた後、端池(はたいけ)に流れこみ、そこではたくさんの鯉を飼い、鯉が料理の残飯などを食べて水が浄化された後は家の前の小川に入り、やがて琵琶湖に流れて行くという仕組み。



水路は定期的に水草や泥を取り除くことで水質を保ち、この美しい水や穏やかな環境は、魚類の産卵場所、生き物のゆりかごとなっている。

← TVのドキュメンタリー番組でもクローズアップされた、地元漁師の船着場。

【出典】滋賀県「滋賀文化のススメ」HP、びわ湖高島観光協会HP

### 歴史ある用水路を題材とした取組

南関東最古の農業用水「ニヶ領用水」を題材として、実際にその一部を歩き、江戸時代から現在まで連綿と続く人と水との関わりを学ぶ。

#### 【ガイド】

NPO法人多摩川エコミュージアム 等

#### 【主な内容】

- 用水路建設・改修の経緯、効果(江戸時代)
- 「水紛争」の頻発
- 明治以降、都市用水としての利用、水質悪化
- 市民、行政による環境改善の取組
- 「円筒分水」の技術や効果等



↑ フィールドワークの様子



↑ フィールドワーク歩行エリア



↑ 久地円筒分水の見学・説明 →



【出典】「ミツカン水の文化センター」HP

## ⑤-3 「水文化」に触れ自ら考える契機を生み出す取組の事例

### ～水土里※の路(みち)ウォーキング(農林水産省)～

「水土里の路」は、心やすらぐ農業水路のせせらぎや美しい農村の景観を楽しみながら、地域の歴史や文化にも接することができるウォーキングコースで、全国に100を超える「水土里の路」を設定

#### 【事例】 疏水百選「香川用水」水土里の路ウォーキング - 水の恵みと先人の知恵を訪ねて -

平成18年2月に「疏水百選」に選ばれたことを契機に、「香川用水」の歴史と恩恵を再認識し、ウォーキングを通して農村の持つ魅力を再発見することを目的に毎年開催(主催:水土里ネット香川用水)。



・香川用水沿いに分水施設やため池、歴史民俗郷土館等を巡る、水と郷土の歴史を学ぶ全長約10kmのコース

・各ポイントでは香川用水について説明したほか、農業・農村の多面的機能や実施中の事業について紹介



※農業用水(水)、農地(土)、農村(里)を象徴する「水」「土」「里」の漢字を並べて「水土里(みどり)」と呼ぶ。農林水産省では、この「水土里」を守るため、伝えていくために日本各地で様々な取組を実施。

### ～語り部交流会(農林水産省)～

農村地域に伝わる民話、伝説、文化、農業用水にまつわる歴史などを語り継ぐ「語り部」との交流、伝承を促進する「語り部交流会」を、語り部(かたりすと)の平野啓子さんの指導・協力のもと、全国各地で開催

#### 【事例】 2013語り部交流会inあきた - 水と土、そのすばらしい農村風景を「継承」する精神(こころ) -

江戸時代の紀行家が見た男鹿地域の水田や滝の頭・一ノ目瀉といった水源が、今なお「素晴らしい農村風景」として継承されている背景にある、先人の苦労の歴史や現在の保全の取組について、様々な「語り」を通して知り、「継承」の精神の大切さを見つめ直すものとして開催(主催:秋田県)。

#### <主な内容>

- ・平野さんによる、農村風景の継承をテーマとした「語り」
- ・農村に宿り続ける継承の精神(こころ)を再確認し農村振興につなげていくことを考える「語りフォーラム」
- ・農村風景を巡る施設見学会 など



(語りフォーラム)



(平野啓子さんによる「語り」)



## ⑤-4 水管理・国土保全に関する「教育」の取組例

- 国土交通省水管理・国土保全局においては、平成20年度より「教科書出版社への説明・意見交換会」を開催。
- 風水害・土砂災害等の災害対策や水辺を活用した活動、河川環境の保全等に関する取組みを紹介し、情報共有・連携強化を通じた防災・環境教育の推進に寄与。

〔国交省〕



平成24年度は教科書出版社22社48名、教科書協会1名の合計49名が参加

### 【説明内容】

- 水管理・国土保全局の取組
- 写真等資料提供依頼の方法
- 最新の災害・防災情報・防災教育等に係る取組
- 河川環境教育等に係る取組
- 提供可能な写真一覧
- 副読本等の紹介

(その後、意見交換・質疑応答)

## ⑤-5 水資源に関する「教育」の取組例

水資源機構や水道事業者等において、出前講座や見学会等を通じて、水資源に関する教育活動に取り組んでいる。

水資源機構における取組の実績 (H24年度)	出前講座	施設見学会	環境学習会	職業体験等	合計
開催回数	約70回	約680回	約20回	約10回	約780回
参加人数(概算)	約4,700人	約50,000人	約1,900人	約200人	約56,800人

※水資源機構の37事務所(本社支社局含む)にて調査

### 事例①:小学校への出前講座(水資源機構)

対象：香川県高松市内の小学校（H24年度は5～10月に22回実施し、4年生約1,700名が参加）

概要：小学校への訪問による水に関する出前講座

内容：水の貴重さや普段使っている水がどこから来ているか等を水槽等による実演・パネル等を用いて説明を行い、水の大切さ等を学習。

事前に学校の先生方へ講座内容の説明を行い、先生方からの要望や意見に添った講座内容とするとともに、児童が興味を引くように、身近な物を利用したクイズ形式を取り入れるなど工夫している。



【出典】水資源機構提供資料

### 事例②:尼崎市水道局における施設見学

対象：尼崎市水道局では市内の小中学生や団体・グループ等の施設見学を実施

概要：社会学習の一環として小学生が神崎浄水場を見学

内容：尼崎市の水道はいつ頃、どのような目的で作られたのかといった話のあと、着水井や沈でん砂、オゾン接触池等を見学し、水の作られていく浄水処理工程を学習した。



水場に集まって「質問コーナー」  
事前学習も「ビッチリ」熱心な質疑が次々と…



水道水って、おいしいね！



できたての水を  
ゴクリ、ゴクリ



奥に行くと、深さ4メートルの底が  
透きとおって見えます

沈でん池の見学（正奥の建物が高度浄水処理棟）

【出典】尼崎水道局「ウォーターニュースあまがさき」

## ⑤-6 水資源に関する「教育」の取組例

農林水産省では、学校の教育活動で総合的な学習の時間や学校行事などを活用して、農業や農村に触れる機会を提供するため、現場見学会、生きもの調査、田植えや収穫などの学習体験を全国各地で開催。

### 【事例③】 小学校への出前授業 (東海農政局)

#### <対象>

養老町立笠郷小学校の5年生54名

#### <概要>

小学校への訪問による農業用水に関する出前授業

#### <内容>

『「田んぼ」の役割』として、地下水の涵養や生物多様性等について説明したほか、「農業と水の関わり」として、どのように水を農地まで引き込むのかなどを説明。授業ではクイズ形式を取り入れるなど工夫して実施。



### 【事例④】 水利施設の現地見学会 (水土里ネット波田せぎ・関東農政局)

#### <対象>

松本市立波田小学校の4年生141名

#### <概要>

社会科の授業で地元の水利施設を小学生が見学

#### <内容>

地域の歴史ある農業用水路「波田堰」について、その役割や先人の苦労などの歴史、現在の事業での取組等について説明のうえ、児童は実際に波田堰や関連施設を見学。





## ⑤-7 水循環の全体像と自らとのかかわりに関するコンテンツの例

自分の住所を入力すると、水道水源や浄水場、生活排水の行き先等を表示するウェブサイト  
 (関東地方整備局HP「水のこと知っていますか?」)

あなたが使っている水は、どこから来て、どこへ流れているのでしょうか? - Windows Internet Explorer

あなたが使っている水は、どこから来て、どこへ流れていくのでしょうか?

あなたが住んでいる 埼玉県さいたま市中央区新都心 は、「荒川水系荒川流域 芝川流域」です。  
 この地域で降った雨は、「芝川」から「荒川」を経て「東京湾」に放流されます。

流域表示  
 雨水の流れ  
 閉じる

検索結果シート レベル1 レベル2 レベル3 川の様子を確認してみよう! 水の資料館 水の写真館



★ あなたの住んでいる場所 ● 浄水場  
 処 処理場 取 取水点  
 流域下水道幹線 ▲ 水質観測地点

<表示例>

**【あなたが住む地域では、どのような水を利用するのでしょうか?】**

河川水…「99%」 [水源内訳詳細](#)  
 地下水…「1%」  
 湖沼水…「0%」 水源の詳細はこちら!

[用語解説](#)

**【あなたが住む地域の水はどこから給水されているのか?】**

「大久保浄水場」とその他18箇所の浄水場 から給水されています。  
[浄水場詳細](#) ←浄水場の詳細はこちら!

その他の浄水場一覧 ←検索地域に該当する他の浄水場の一覧

全域給水区域 ←該当する複数浄水場の給水区域

**【あなたが住む地域の下水道整備の状況は?】**

「下水道整備済地域」です。

**【あなたが使った水は、どこへ流れているのでしょうか?】**

<下水道に接続されている場合>  
 「新河岸川処理センター」→「新河岸川」→「隅田川」→「東京湾」  
[処理場詳細](#) ←処理場(放流先)の詳細はこちら!

水源地内訳 - Windows Internet Explorer

埼玉県さいたま市中央区新都心付近

<水源内訳>

どの水		割合	どこから
河川の水	河川水(自流)	0%	
	ダム	99%	荒川調節池(完成), 合角ダム(完成), 有間ダム(完成), 下久保ダム(完成), 浦山ダム(完成), 八ッ場ダム(工事中)
地下水		1%	
湖沼水		0%	

[ダム等位置](#)



## ⑤-8 地域の自然・社会・インフラ等についての総合的な学習

### T社の中学地理教科書における「国土への働きかけ」記述例(抜粋・概要)

九州地方	<p>【自然環境を中核とした考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○梅雨や台風などの集中豪雨によって洪水や土砂くずれなどの自然災害が多い九州地方(本文3行)</li> <li>○桜島火山防災への取り組み(本文6行)と島原の火山災害(コラム)</li> <li>○全線開通した九州新幹線など九州地方の鉄道の拠点・博多駅、国内及びアジアへの空の窓口・福岡空港(本文4行)</li> <li>○輸送に便利な高速道路や空港近くに立地するIC工場(本文2行)</li> <li>○シラス台地の開発(鹿児島県笠野原:ダムや農業用水の整備→畑作の多様化)(本文9行)</li> <li>○沖縄:大きな川がなく、水不足が起こりやすい→地下ダムの整備とかんがい用水(本文4行)</li> <li>○ハザードマップから防災を考えよう(テーマ学習)</li> </ul>
中国・四国地方	<p>【他地域との結びつきを中核とした考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の中でも降水量の少ない瀬戸内地域では、ため池を利用して農業が行われてきた(本文3行)と讃岐平野のため池(写真)</li> <li>○中国・四国地方の交通網の発達の歴史(海上交通から陸上交通へ)(本文11行)</li> <li>○本州四国連絡橋の開通と生活環境の変化(移動時間の短縮、通勤・通学者数の増加、救急医療圏の拡大、地元商店街の売上減少、フェリー利用者の減少)(本文15行)</li> <li>○広島市形成の歴史(本文10行)</li> <li>○高速道路網の整備と栽培野菜の多様化(本文12行)</li> <li>○高速道路網の整備と観光客の増加(本文9行)</li> <li>○過疎問題(道路整備の遅れ、鉄道・バスの限定等)と地域活性化(徳島県上勝町の「つまもの」ビジネス等)(テーマ学習)</li> </ul>
近畿地方	<p>【環境問題や環境保全を中核とした考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○琵琶湖・淀川水系の水源としての役割と水質改善の取り組み(本文10+7行)</li> <li>○京阪神大都市圏におけるニュータウン建設、交通インフラ整備、市街地拡大(本文7行)</li> <li>○大阪市の開発の歴史(舟運と水路・橋の発達、郊外の宅地化と鉄道整備、都心再開発)(本文11行)</li> <li>○神戸市の開発の歴史(貿易港から国際都市へ、山をけずったニュータウン開発と人工島整備による都市拡張、琵琶湖・淀川水系からのポンプ導水)(本文12行)</li> <li>○「古都」奈良・京都と街並みの変化(本文15行)</li> <li>○歴史的景観の保全に向けた取り組み(奈良県橿原市今井町、京都市)(本文15行)</li> <li>○森林の国土保全面での役割(農業・生活用水の安定供給、洪水防御など)と「企業の森づくり活動」(本文10行)</li> </ul>

- ※「国土への働きかけの歴史やインフラ整備による産業・生活への影響」に関する記述を取り上げ。
- ※自然災害、防災・減災、水・国土管理に関する記述は「青色」
- ※農業基盤整備、森林保全に関する記述は「緑色」
- ※交通インフラ(施設整備・管理)に関する記述は「赤色」
- ※都市開発、面整備、都市景観に関する記述は「茶色」
- ※国土の荒廃と維持(過疎問題、限界集落問題など)に関する記述は「黒色」

## ⑤-9 「自身とのかかわり」について、土木広報での考え方

土木構造物は完成すると見えなくなるものも多く、その恩恵に気づかない、  
または始めからそれが当たり前と理解されているケースが数多くある

➡ **見えないものの大切さ、見えにくい価値や役割に思いを馳せ、イメージしてもらえようなコミュニケーションを目指す**

### 土木界の「ジョハリの窓※」

	土木界が知っている	土木界は知らない
国民は知っている	<b>【①顕在的イメージ】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>土木施設は身近にある</li> <li>生活の役に立っている</li> <li>東日本大震災で減災に役立った</li> </ul>	<b>【②無自覚イメージ】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>国民が以下の疑問を抱いていることを土木界関係者は理解していない。</li> <li>社会資本ってなに？</li> <li>コンサルタント、ゼネコンってなに？</li> <li>社会資本って必要なの？</li> <li>無駄な施設に税金を浪費？</li> <li>非常時に役に立つの？</li> <li>土木マニアの存在</li> <li>くしの歯作戦が知られていないこと</li> </ul>
国民は知らない	<b>【③潜在的イメージ】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の社会資本は十分でない</li> <li>地震時に危険な箇所がある</li> <li>経済の活性化に貢献</li> <li>東日本大震災で啓開作業にあたった</li> <li>復旧、復興に貢献している</li> <li>土木施設はおもしろい</li> <li>最先端技術が用いられている</li> <li>特例公債と建設国債の混同</li> </ul>	<b>【④未知的イメージ】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>国民も知らない、土木界も気づいていない土木の魅力があるのではないか？</li> <li>QS世界大学ランキング</li> <li>土木の意味</li> </ul>

目指すべき方向

### 広報を成功させる視点

1. 広報対象を明確化しターゲットごとに広報メニューを考える
2. 小さな広報でも束ねるとインパクトを持つ
3. 一度であきらめずに手数を打つ
4. 広報は継続してこそ効果が出る
5. 目玉のメニューを打ち出す
6. 広報の材料は見せ方を変えて再利用する
7. 広報の成功事例を情報共有し、ローカルな試みを全国展開する

※ジョハリの窓：社会心理学において、コミュニケーションにおける自己の公開とコミュニケーションの円滑な進め方を考えるために提案されたモデル

【出典】土木広報アクションプラン最終報告書(2013年7月31日土木学会)、および  
龍尊子『「伝える」から「伝わる」へ、社会を支える“土木のチカラ”』(セメント・コンクリート No.800,2013.10)から水資源部作成

## ⑤-10 産・学・官が連携した取組の例

### 水を賢く使う社会の構築

#### ■ 巧水スタイル推進チーム

水を巧みに使う国づくりを目指して、**産学官の連携**による「巧水(たくみ)スタイル推進チーム」を結成し、水を大切に作る意識の向上を図るとともに、**節水機器・節水型ライフスタイル普及に向けての取り組み**を積極的に推進

##### ● 活動内容

- 巧水スタイルの普及・啓発
- 節水意識の醸成
- 節水機器の普及促進
- 情報収集及び調査・研究
- 巧水スタイルによる各種提言
- 巧水スタイル推進チームの強化・拡充

##### ● チーム会員 (H25.3現在)

【代表】(独)建築研究所 山海敏弘  
 【推進委員】日本衛生設備機器工業会  
 日本バルブ工業会  
 山海敏弘 ( (独)建築研究所)  
 松山市、高松市、北九州市  
 国土交通省 水資源政策課  
 経済産業省 日用品室



水の週間関連行事等を自治体と共催し、パネルや体感型ボードの展示、チラシ配布等を実施

【出典】巧水スタイル推進チーム資料

### 雨水利用の推進

#### ■ 雨水ネットワーク会議

- 「雨水の貯留、浸透及び利用(雨水活用)」に関わる**国・自治体・事業者・学会・市民団体**によって設立
- **情報交換や人的交流**を中心に、互いの主体性を尊重しながら補完しあえる関係を築いていくことを目的
- 構成団体としては、NPO法人雨水市民の会(東京)や関西雨水市民の会(大阪)をはじめとする市民団体、全国約130の自治体で構成する雨水利用自治体担当者連絡会、公益社団法人雨水貯留浸透技術協会、雨水利用事業者の会、一般社団法人日本建築学会などの団体
- アドバイザーとして環境省、国土交通省など国の機関の関係者も参加



第5回全国大会の様子



第6回全国大会ロゴマーク



全国大会の開催地 (第1回～第6回)

【出典】雨水ネットワーク会議資料



## ⑤-11 NPOや企業が主体となった取組

自治体、住民、企業など様々な主体が、水利用者の立場から自主的・主体的な水源林の保護・育成や水源地域住民との交流などの取組みを各地で実施。

### NPOの活動

- ・ 吉野川下流の徳島市の「NPO法人新町川を守る会(会員数260名)」は下流域活動に加え、吉野川流域交流事業として源流域の早明浦ダムがある高知県嶺北地域と交流活動、植林、活性化支援を実施。
- ・ 年3回の植樹と下草刈りを行い、現在600本の広葉樹が育っている。



「NPO法人新町川を守る会」  
HPから転載

### 飲料水メーカーの水源地域での取組み

#### アサヒビール(株)

- ・ 保安林とした「アサヒの森」(社有林2,165ha)での「自然学園、森の子塾」
- ・ 「水源地の森」保全活動 全国9ヶ所

#### 麒麟ビール(株)

- ・ 「水源の森活動」 全国15ヶ所

#### サントリーHD(株)

- ・ 「天然水の森」 全国7,600ha
- ・ 水育「森と水の学校、出張授業」 全国3ヶ所

#### 日本コカ・コーラ(株)

- ・ 「森に学ぼうプロジェクト」 全国11ヶ所
- ・ 水資源保護活動 全国20ヶ所



森林整備体験活動(奥多摩)  
サントリーHD(株) HPから転載

等

### ミツカン水の文化センター

#### 【設立目的】

- 一、「水の文化」にかかわる研究活動を行いその成果を広く公開し、啓発活動を展開することで「水」に対する意識の向上を図っていく。
- 二、新しい「人と水とのつきあい方」の提案を通じて人々の豊かな暮らしの創造に貢献していく。

#### 【活動内容】

##### 機関誌『水の文化』

「人と水」、「人と人」のかわりの中で生み出された「水の文化」を発掘し、提言する冊子です。  
(年3回無償で発行、HP公開)



##### 水の風土記

魅力あふれる独自の「水の文化」を培っている「人」や「事・場」をお訪ねして、研究や活動をホームページで紹介します。

##### 里川文化塾

目指せ「里川」！ ワークショップで、「使いながら守る水循環」=「里川」とのつながりを発見し、考えていきましょう。  
(2011年9月よりこれまで16回開催)



##### 調査報告

急速に変化する「水の文化」の現在を、社会調査で掘り起こし、未来に向けて提案します。

「ミツカン水の文化センター」HPから転載



## ⑤-12 人材の育成にも主眼をおいた取組の例

### 「子どもの水辺」再発見プロジェクト

〔国交省〕

文部科学省・国土交通省・環境省連携プロジェクト

- 地域の市民団体、教育関係者、河川管理者等が連携（協議会を設置）して、「子どもの水辺」を選定・登録し、子どもたちの河川の利用を促進し、地域における子どもたちの体験活動の充実を図る。（H11年度創設）
- 平成23年度末現在、全国で293箇所が登録

### 水難事故の防止に向けた普及・啓発活動

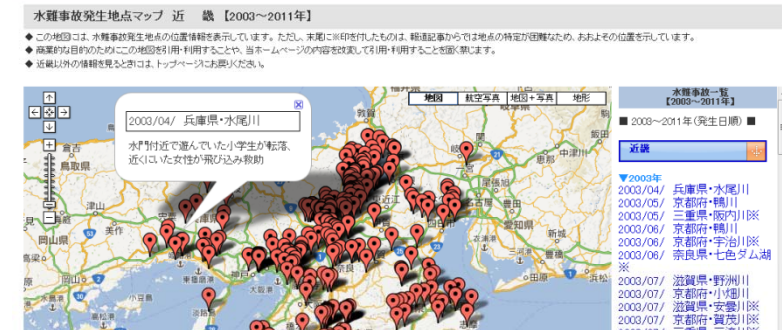
〔国交省〕

- 川での安全で楽しい活動を普及等を目指すNPO法人「川に学ぶ体験活動協議会（RAC）」等と連携し、水難事故の防止に向けた普及・啓発活動を実施。

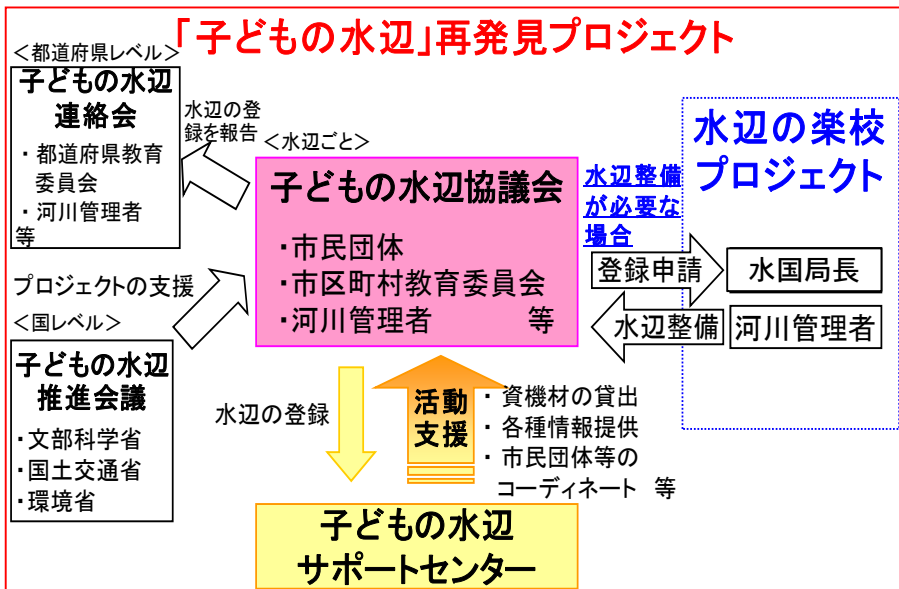


RACにおける川の指導者育成講習会の様子

### ■全国の「水難事故マップ」を公表



全国の地域ごとに水難事故情報（場所や事故の概要）を表示



## ⑤-13 活動の裾野が自ずと広がっていくような取組の例

### ダムツーリズム

〔国交省、水資源機構〕

- 民間ツアー会社と提携してダムツアーを実施
- ツアーの内容について、パンフレットを作成しPR
- 出来上がった施設だけでなく工事の様子も観光資源として活用し、水源地域の振興の早期化を図る。



ダムツーリズムPRパンフレット「ダムを見に行こう」

- 特徴あるインフラ施設を観光資源として活用

二瀬ダム、浦山ダム、滝沢ダム、合角ダム(埼玉県)での事例

- 埼玉体験旅クラブ(JTB)と国交省、水資源機構、埼玉県が連携し、秩父4ダムツアーを実施
- ツアー当日、各ダム管理所ではダムの現地案内を実施



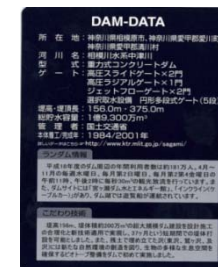
### ダムカード

〔国交省、水資源機構〕

- ダムカードは、統一化されたデザインの名刺大カードで、1人1枚無償で配布を受けられる広報ツール。全国307ダム(H25年10月11日)で配布。
- 現地でのみ配布するため、全国各地のダム所在地への訪問を促す一つのインセンティブとなっている。



表面



裏面

ダムの諸元、エピソード等を記載

## ⑥-1【参考資料】「水文化」の概念（H11年度の検討より）

### 「水文化」の定義

「地域の人々が水を上手に活用し、また水を制する中で生み出されてきた有形、無形の文化や伝統」

#### ■ 水文化の形成

- わが国では、それぞれの地域が、水と深い  
かかわり
- 水は地域に恵みを与える存在である一方、  
洪水や渇水等の災いをもたらす存在
- 各地の龍神様や水神様を祀るほこらや祭  
事、民話や伝承がそれを今に伝える。

長い歳月の中で「水文化」を醸成

#### ■ 水文化の衰退

- 戦後、急激な経済成長の陰で過疎化や高齢化が進み、地域の姿が大きく変貌
  - 水そのものも流量が減り、汚れが目立つように
  - 水とふれあう場や機会が減少
  - 農業・林業・漁業など水と深く関係した産業が衰退
- ⇒地域と水のかかわりも大きく変化

全国各地の個性豊かな「水文化」は、  
その存立基盤を失い、衰退の方向に

#### ■ 水文化の持つ意味

- 「水文化」は、その地域が持つ自然環境や社会条件を端的に映し出す「鏡」。長い年月の中で磨き抜かれた「生活の知恵」を内蔵。
- 日常的に「水文化」に触れ、「水文化」と対話することができれば、本来的な自分達（地域社会）の姿や、生活の知恵を再確認できる。

日常的に「水文化」に触れる機会を生み、自ら考える契機を作り出すことが第一の狙いとなる。

#### ■ 健全な水循環系の再構築と新しい水文化の創造

- 地域の姿や水の様子が大きく変貌し、これに伴って地域と水とのかかわりも大きく変化
  - 昔ながらの「水文化」が、現代社会にそぐわなくなりつつあることも否めない
- ⇒新しい「水文化」を形成していくことも重要

新しい「水文化」の形成、という視点を忘れずに、地域にあるべき「水」を考え、  
また「水とのかかわり」を大切に育てていくことが、大いに役立つ